

## 海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	アメリカ・ワシントン州シアトル市
研修先	兵庫県ワシントン州事務所
プログラム実習期間	2012年8月20日～9月11日
学部/研究科・学年	経営学部 3年

## インターンシップ就業実習 報告書

### メンバー

インターン生は全体で7名おり、全員2、3回生で休学もしくは夏休みを使って参加していた。出身校の内訳は5名が兵庫県内、2名が神奈川県内の大学であった。ほとんどが大学のプログラムを通じて応募していたが、1名は個人で準備をして応募したようであった。兵庫県事務所の建物内には今回お世話になったビジネス・文化センターの他に、日本とアメリカの農業交流の事務所が入っていた。ワシントン事務所では駐在員に水口所長と北岡顧問、現地社員にベンジャミンさんと裕子さん、監査に恵子さんの5名の方々が働いていた。中でもベンジャミンさんがインターン生の教育係であった。

### 1日の流れ

勤務時間は朝9時半から4時半まで、休憩は12時から1時までであった。そのためホームステイ先は朝8時半頃に出発し9時15分頃に事務所に到着するのが主であった。シアトルの交通機関は予定時間よりも早く着たり、30分も遅れてくるのが普通であったため時間に余裕を持って行動しなければならなかった。朝事務所に着いて一番最初に行くことは農業の事務所の方々も含めて全員にあいさつをし、ベンジャミンさんに一日の仕事内容を仰ぐことであった。一人一台ずつデスクとPCが割り当てられた。ベンジャミンさんのオフィスがインターン生のオフィスと離れていたため、仕事を開始して質問があった場合はメール、内線やgoogleチャットを使って連絡を取った。昼休みはインターン生のオフィスに全員が集まって昼食を取る形式だったため、お弁当を持参したり外に買いに行ったりした。近くにはベトナムレストランやカフェがあったため昼ご飯を忘れても不便ではなかった。帰りは定時に帰るように指示されたためイベント等事前に言われた時以外残業はなかった。仕事後はインターン生同士でシアトル内を観光したり食事にいったりした。ホームステイファミリーとの食事に遅れないように数名が7時過ぎには帰らなければ行けなかったことや日暮れが7時頃であったこともあって長くは遊べなかったがシアトル市内・郊外には観光する場所が多くあり仕事終わりに充実した一日を送れた。

### 仕事内容

#### マリナーズ応援団

最初の仕事として、8月22日はシアトルジャパニーズナイトであったためマリナーズの試合を日本式の応援で盛り上げようという企画で、コスチューム係、応援旗係、応援歌係の3つの仕事に分けられた。私が担当した仕事は応援旗作りであり、1m×2mの大きさの青い布に、マリナーズの拡大ロゴと「一球入魂」の文字を印刷して旗を作った。コスチューム係が日本式応援団に参加してくれる協力者に配布するはちまきを作り、応援歌係は英語で応援歌とリズムを数セット作った。当日は夕方4時までにすべてを作り終えて試合会場にバスで向かい、ゲームセットまでに準備をした。応援をし始めた時、周りの

反応はとても冷たいものであった。しかしパンフレット等で日本式の応援を説明し理解してもらうことで、徐々に協力者以外の人も参加するようになった。周りの理解のないことを大声で行うことはとても恥ずかしかったが、最終的には盛大に応援することができ十分成功したと言える。

## 秋祭り

マリナーズの応援が終わった翌日から本格的に秋祭りの計画が開始された。私たちは兵庫県の歴史、自然、食、モダンカルチャーをテーマに兵庫県を紹介し、人を呼び寄せるために輪投げ、フォトブース、ラジオ体操、六甲おろしを催す計画を立てた。まず最初の1週間は各メンバーがそれぞれ担当するカテゴリについてパネル用に英訳した。2週間は催し物の準備を始めた。当日2、3日前は手の空いているメンバーが手伝ったりして、残業や持ち帰りすることなくスケジュール通りに進めることが出来た。当日は現地集合であったがバスが土日運行スケジュールであったため乗り遅れてしまった。バス停でインターン生の一人と会い、いくら待ってもバスが来ないためタクシーに乗って現地に向かった。事務所の方々はタクシーに乗ってまで時間通りに来なくても良かったと言ってくれたが遅刻してしまったこちら側が悪いので申し訳なかった。秋祭りは10時に始まったが、忙しいのは11-3時頃がピークであった。基本的にスタッフ全員が輪投げ係や景品の折り紙作りに忙しくもって景品を用意しておけば良かったと思う。また天気が曇りで時折強風が吹いていたためパネル等が飛ばされるなどひやりとしたシーンがあった。お昼休みは2人グループになって30分間もらいその間に昼食と他の催し物を見る時間が含まれた。訪客層は主に子連れの親子で、輪投げに夢中になっていた。様々なトラブルに見舞われたが予想以上に多くの方々に来てもらい秋祭りは大成功だった。

## 感想および意見

### 日常業務の感想

月曜日から金曜日まで働くことが初めてだったため失礼の無いように振舞えるか心配であったが、事務所の方々はとても親切で、丁寧に仕事を教えて頂いた。事務所環境も仕事がしやすく整っていた。インターン生のオフィスには裕子さんのデスクがあり、1階にいるベンジャミンさんとも内線、googleチャット、メール等でいつでもコンタクトが取れるようになっていた。よって、業務で疑問点があれば気兼ねなく質問することが出来た。またお昼休みは事務所の方々とインターン生が集まり一緒に昼食をとった。何度か近くのレストランでランチをテイクアウトできるように連れて行って頂いたり、仕事帰りにおいしいお店を紹介して頂いたり、シアトルの現地の食文化を体験することが出来た。また休日の観光のおすすめを教えて頂き、有意義に休日をお過ごすことが出来た。よって、初日から緊張が解けて毎日インターンに行くことが楽しみになっていた。

### 自身の感想

何度か病欠で休んでしまい、出来る範囲で自宅にて作業した。風邪薬を持参しなかったため、ホームステイファミリーや事務所の方々に薬を頂き、多くの方にご心配をおかけした。日本では風邪を引いても会社に来なければやる気が無いと思われる慣行があるが、アメリカでは風邪を他の人に移さないように完治するまで会社に来てはならないという現実的な考えがあるようで文化の違いを経験した。

今回のインターンシップの目標は将来アメリカで働きたいという夢に対して私自身向いているのか、ま

た、アメリカの大学で培った英語力や適応能力を活かすことが出来るのかということであった。結果、やはり海外で生活している方が自身が生き生きしているのを発見することが出来、自分の夢を再認識することが出来た。ただ以前よりも英語力が落ちておりとても煩わしかった。シアトルで働く日本人の方々が海外で働くにはまずは日本のことをよく理解することが大切であるとアドバイスを頂き、海外ばかりに目を取られるのではなく日本への理解を深めようと思った。

### **秋祭りチームの感想**

秋祭りのチームは他大学の女子1名、神戸大学から私達3名の4人からなっていた。チームが設定され、最初のプロジェクトの話し合いを私達インターン生4人のみで話し合った時点で問題が生じ、意見が対立し、チームがバラバラになってしまった。最終的には教育係のエリクソンさんが4人一人ひとりと話し合い秋祭りを成功させることが出来た。全員が秋祭りを成功させたいという強い気持ちがあり、その目標までの向かい方が違っていたためこういった問題が生じてしまった。よって対立自体は悪いことではなかったと思うし、誰もが必死に取り組んでいた証拠だと思った。私自身はこの経験を通して一番学んだ事は、問題が生じ対立した時はチームとして成功するにはどうしたらいいのか？を軸に行動するべきだと学んだ。私達が会社に就職すれば、こういった対立や悩みはもっと生まれてくるはずで、今回のインターンで組織内の問題に対する対処法を勉強することが出来て良かったと思う。

### **秋祭りの感想**

予想していたよりも多くの出し物と訪客が来ていた。ロケーションも人通りが多いところで、兵庫県のパネルも目立つところに置いたので多くの人が見に来てくれた。残念だったのが、輪投げや写真ブースの客寄せのための出し物が忙しく、パネルを置きっぱなしにしていたところがあった。兵庫県の歴史、自然、食、モダンカルチャーに関するパネル、紹介カード、パンフレット等を置いていたため兵庫県を紹介するという目的は達成できたと思うが、来てくれた訪客の質問に対応できるスタッフを配置しておけばよかったと思う。私が担当したラジオ体操や六甲おろしは日本人には当たり前のことだがアメリカ人にはユニークに写るようで写真を撮ったり興味を持ってくれたりしていて盛り上がる事が出来たと思う。

